

📖 今月のおすすめ本 📖

『テレビドラマ研究の教科書 ジェンダー・家族・都市』【778.8/フ】

藤田 真文(2024)青弓社

本書はテレビドラマ研究をする人のための入門書で、第一部はテレビドラマの分析方法について、第二部ではテレビドラマが日本社会をどのように表象していたか、「21世紀日本のジェンダー、家族、都市」の視点から分析されています。例えば女性像について、『逃げるは恥だが役に立つ』の「それは、好きの搾取です！」というセリフから結婚で女性が担う家事労働の経済的価値について考察されています。

第三部では脚本家、鎌田敏夫の4つのドラマについて分析されています。

本書では『金曜日の妻たちへ』、『半沢直樹』、『ひよっこ』、『きのう何食べた?』など話題となったテレビドラマがどのように分析されているか、読んでみませんか。

📖 ドラマについて

『ジェンダーで見るヒットドラマ』【778.8/シ】籾部 れんげ(2021)光文社

『時代を変えたミニの女王マリー・クワント（新装版）』 【589.2/リ】

ジェニー・リスター/著、中野 香織/訳監修 (2023)グラフィック社

「ミニの女王」と呼ばれたマリー・クワントが、カレッジを卒業してからどのようにグローバルブランドへと歩いていったのか、イギリスの1960年、70年代を中心に写真やデザインスケッチとともに詳しく説明されています。

日本では、マリー・クワントはミニスカートを連想するよりも、圧倒的なブランド力、デイジーの花のロゴが付いたコスメやポーチのイメージが強いのではないのでしょうか。1960年代から70年代にかけて、正にマリー・クワントがロンドンのチェルシー地区にバザーという店を開き、ミニスカートでファッションを席卷しコスメやジュエリーまでカバーするトータルルックの販売戦略に舵を切っていく流れが良く分かります。ウエストを締めつける服、がちがちにスプレーで固めた髪型から解放され、マリー・クワントのワンピースを着て、サスーンカットで髪をなびかせ、ローヒールで自由を闊歩する当時の女性を見るのも楽しいです。

📖 ファッションについて

『ローラ・アシュレイ デザインに捧げた人生』【289.3/セ】 アン・セバ/著(2004)パベル・プレス

『スカートと女性の歴史 ファッションと女らしさの二〇世紀の物語』 【383.15/ク】

罇ンバリー・クリスマン=キャンベル(2023)原書房